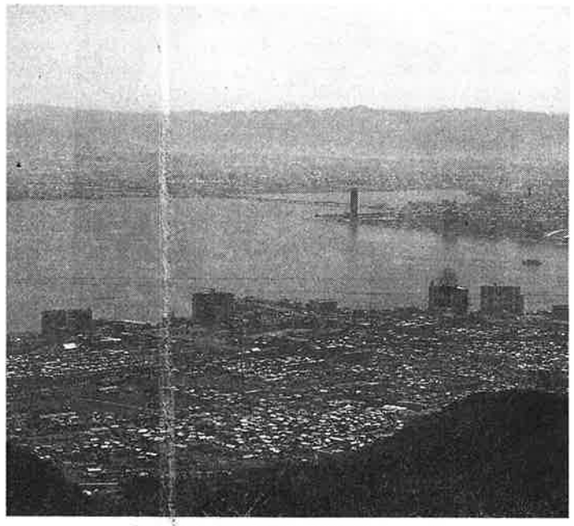
甲第34号証

崩れた安全神話⑤

原発銀座に隣接 滋賀は…



多くの命を支える琵琶湖（大津市で）

風で運ばれる放射性物質

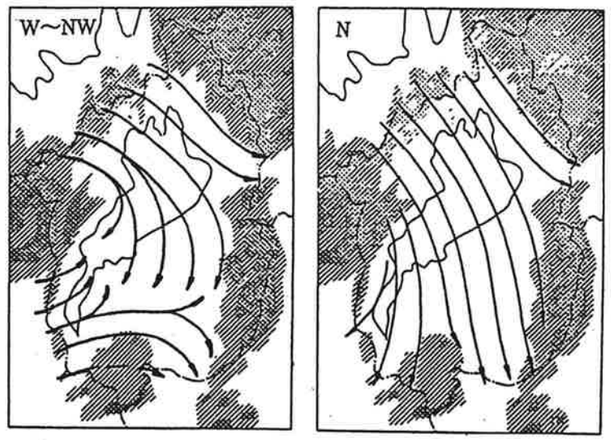
福島原発事故で計画的避難区域とされた飯舘村。家族が離散し、懸命に育てた家畜も手放して村を出ていく人たちの姿に、全国が涙しました。飯舘村は福島第一原発から47キロ。滋賀に当てはめると敦賀原発からは長浜、米原、高島の各市、大飯原発からは高島、大津両市がかかります。福井県の原発事故で放射性物質が屋外に流れ出たら――。

◆若狭湾から吹き込む風

飯舘村に放射性物質を運んだのは風でした。同村で放射線量が急増したのは3月15日。この日の夕方、風は飯舘村がある北西方向に吹き、夜に一部地域で降った雨といっしょにヨウ素やセシウムが地上に落ち、地面や建物に付いたと考えられています。

滋賀で、風はどんな吹き方をするのでしょう。彦根地方気象台がまとめた県内の一般風の基本パターンは4種類。このうちの2つが「北西寄り」と「北寄り」の風です。

いずれも冬型の気圧配置に伴うことが多く、最多の「北西寄り」の風は若狭湾から長浜、米原へ流れ、県南部の野洲川付近では西から吹き込んだ風とぶつかって甲賀地域へ。また、「北寄り」の風は若狭湾から吹き込んで県内全域に。湖北・湖東では強く吹くといいます。彦根を例にとると、年間を通じて多く吹くのは北西からの風でした。



県内で多く吹く風のうち、2つのパターン（「滋賀県の気象」彦根地方気象台編より）

若狭での原発事故で県土に未曽有の被害

風上の若狭湾には原発が密集しています。

◆雨で汚染地域が拡大

風に乗って不均一に広がる放射性物質はスギ花粉の10万分の1単位の微粒子と言われ、大気中に浮遊します。目には見えませんが、地面に降り注ぐ「黄砂」に例える研究者もあります。京都大学原子炉実験所の元教員・岩本智之さんは、「チェルノブイリ原発事故では200キロ近く離れているのに放射線量が著しく高くなる地域があった」ことを重要視。すでに滋賀でも雨水などから、福島の影響と見られる微量の放射性物質が検出されています。

雨が降ると事態はさらに深刻です。空気中に漂っていた放射性物質は雨といっしょに地上に落ち、土壌の表層に付着していたものは地中に浸透し、川にも流れ込みます。福島原発事故では、水道水や農作物、牛乳などから基準値を上回るヨウ素131やセシウム137が検出され、住民を不安に陥れました。「雨によって放射能汚染地域がさらに拡大されていく」。日本環境学会前会長で、土壌汚染が専門の元大阪市立大学大学院教授・畑明郎さん（竜王町）は指摘します。

◆琵琶湖に深刻な影響

県土の6分の1を占める琵琶湖。大小100余の河川が琵琶湖に入り、湖から流れ出る水は、京阪神の人々の貴重な飲み水になります。「流れ込んだ放射性物質が琵琶湖特有の湖流に運ばれて汚染が広がり、湖底に堆積したものは放射線を出し続けます。セシウム137は半減期が30年と長い。生態系への影響は計り知れず、琵琶湖は壊滅的打撃を受けます」（畑さん）。

敦賀には福島第一原発よりも危険な高速増殖炉「もんじゅ」があります。琵琶湖を抱える滋賀に、原発事故が未曽有の被害をもたらすのは気象・地理的条件からも明らか。岩本さんは言います。「いろんなケースを想定して、放射性物質がどれだけ琵琶湖に落ちるのか、京阪神の上水道にどれだけもたらされるのか、国も本格的に研究する必要がある」

地域・情報

多賀町議選　来年３月31日任期満了

日本共産党が山口さん擁立

日本共
年3月31
選（定数12
擁立して

山口

1945
工業高校
学園大学
委員長。

意見ポスター〝原発から自然エネルギーへ〟

共産党湖南地区が取り組み

日本共産党湖南地区員会が原発の総点検と全対策、原発依存から然エネルギーへの転換アピールしようと、賛者1000人の名前をねた意見ポスターへの力を呼びかけています。ポスターの大きさは